

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 6 月 6 日現在

機関番号：32404

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15H03220

研究課題名(和文) 日越語比較コーパスによる日本語コミュニケーション教育研究

研究課題名(英文) comparative research of communication with Japanese and Vietnamese Language corpus for foreign language learning

研究代表者

柳澤 好昭 (YANAGISAWA, Yoshiaki)

明海大学・外国語学部・教授

研究者番号：80249911

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 11,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、日越語の話し言葉の動画付きコーパスを作成し、言語行動・非言語行動の比較を目的とする。ベトナムの大学と日本の日本語学校の協力を得て、ベトナム人同士50名、ベトナム人と日本人10名、日本人同士4名の会話(ベトナム語、日本語両方、各30分)を収集した。収集したデータを映像配信システムstreaming galleryでマルチメディアでデータベース化し他の研究者のためにも公開した。収集したデータを言語、文化両面から比較した結果、1)相づちは両言語にあるが、その用法、機能、種類に異なりがある、2)表現形式(例：誘い)に類似性はあるが、その機能と相手の反応には異なりがある、などの成果を得た。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this research is comparing linguistic behavior and non verbal behavior in Japanese language and Vietnamese language communication. With the cooperation of Vietnamese University and Japanese Language Schools in Japan, The following each 30 min. conversation data was collected. 1)Vietnamese to Vietnamese(25 pairs) in Japanese and Vietnamese, 2) Japanese to Japanese(5 pairs) in Vietnamese and Japanese, 3)Japanese to Vietnamese(2 pairs) in Japanese and Japanese). Those data was uploaded on video distribution system, "Streaming Gallery" (NEC). As a result of comparing those data, the following was found out, 1)"aizuchi" in Japanese and Vietnamese languages are differences form, usage,function, frequency. 2)Similarity in expression form (e.g.invitation, refusing, asking) has differences meaning and function. The present result suggested that the following; 1)Japanese language education based on cultural differences and similarity, 2)Practice to properly use various expressions.

研究分野：日本語教育

キーワード：日本語教育 比較コーパス 異文化間コミュニケーション 対照研究 異文化理解

## 1. 研究開始当初の背景

(1)ベトナム人日本語学習者の増加への対応  
数年前から非漢字圏の留学生，特にベトナム人が増加。ベトナム人の日本語習得は，他の非漢字圏の学習者と異なる様相を示す。コミュニケーション・スタイルの問題，他の東南アジア諸言語より日本語とは言語近接性が高いが，文法や音声構造などで言語的な隔たりの大きさがあり，特に音声面での習得が困難である。

### (2)日越研究の基盤形成

日越語に関する様々な分野での対照研究や，ベトナム語コミュニケーションに関する研究はない。フランス文化，中華文化をはじめ新しい文化が流入し，地域ごとに独自の文化を醸し出してきたベトナムでは，コミュニケーション・スタイルも多彩である。ベトナム人とコミュニケーションを図るには，出身地域を理解する必要がある。しかし，このようなコミュニケーション研究はベトナムで行われてはいない。また，ベトナム語自体の研究も黎明期であり，これからである。

### (3)コーパス駆動型研究の推進

日本語の自然会話データは，これまでに代表者が日本人と外国人のデータ合計 300 時間，公開されているデータ，東京外国語大学の日本人同士のデータ約 28 時間，インタビュー・データの KY コーパス約 30 時間，国立国語研究所の日本人と外国人のデータ合計約 300 時間がある。これらのほとんどに関わる代表者の管見の限りでは，話し言葉のデータが言語教育や言語学習への活用を主たる目的とした対照研究に用いられるデータベースは少ない。

### (4)言語学習・言語教育・言語資料・文化資料の統合的アプローチの教育のための研究

非漢字圏の学習者が日本語を習得するには，一層の音声識別能力，文法的感受性を高める指導が必要となるが，それを支える円滑なコミュニケーション関連の基礎資料はない。

## 2. 研究の目的

学術的社会的背景を踏まえて，以下の目的を掲げる。

(1)日越語のコミュニケーションにおける言語行動・非言語行動の様相の比較コーパスの作成

(2)作成した日越語比較コーパスによる日本語コミュニケーション教育の在り方，ベトナム語コミュニケーション研究の推進

(3)ベトナム人日本語学習者への日本語コミュニケーション教育のための基礎資料の作成

(4)言語表現とその選択，非言語，場面文脈を柱とする日越語の比較研究に基づく非漢字圏学習者対象日本語コミュニケーション教育の指標の作成

## 3. 研究の方法

研究目的のため，日越語比較コーパスを作成し，以下のことを明らかにする。

(1)日越語のコミュニケーションの相違と類似を明らかにし，その背景的要素を抽出する。

(2)ベトナム人の日本語コミュニケーションで見られる障壁を明示し，日本語運用上の要因を整理する。

(3)相互作用的アプローチの観点から，日本人のベトナム語コミュニケーションで見られる障壁を明示と，ベトナム語運用上の要因を整理する。

(4)ベトナム人への日本語コミュニケーション教育に不可欠な要素を抽出する。

(5)日本語コミュニケーション教育のために日本語コミュニケーションの視点と具体例を提示する。

このために，以下の方法をとった。

(1)対象：属性情報（年齢，性別，職業・バイト，外国語学習歴，日本語学習歴，性格，出身地，在日経験・在越経験など），場面文脈（話題，時間帯，場所など），目標，必要

性, 学習言語のネイティブの友人関係などを考慮し, ベトナム人同士 25 組 (日越語各 30 分の会話), ベトナム人と日本人 5 組 (日越語各 30 分の会話), 日本人同士 2 組 (日越語各 30 分の会話)

(2) 収集: 設定した枠組みでメガネ型ビデオカメラまたは複数同時録画カメラによる会話録画とフォローアップ・インタビューと各インフォーマントの情報 (前項目の属性情報, 言語学習ピリーフ調査 BALI, 言語学習ストラテジー調査 SILL)

なお, 収集した全データは固有名詞除去, 不適切な表現のノイズ化の処理を行い電子化。

メガネ型ビデオカメラ 複数同時録画カメラ



(3) 蓄積: 比較検討するためのコーパスとして, 動画像と音声とテキストを組み合わせ Web 配信できる NEC 製 StreamGallery (ストリームギャラリー) の一部を改変し使用した。これにより検索抽出において, 動画像と音声とテキストが連動して行える。なお, 動画像は 2 画面または 4 画面同時表示される (下記は 1 画面)。

なお, 現在, サーバを移行しての再公開の準備をしている。



4 . 研究

成果

研究の目的, 研究の方法を踏まえ, 得られたデータを比較検討した結果, 以下のことがいえる。

(1) 日越語のコミュニケーションでは, 例えば依頼, 断りに同種の表現形式が存在するが, その意味理解と使用が異なる。相づちの重要性は類似するが, その形式の種類, 使用の回数・タイミング, 機能に相違がある。また, 表現使用の基準となる親疎・上下等の諸要素に類似はあるが, 優先順位に相違がある。

(例) ベトナム人にとって「食べに行かない?」と「食べに行こう」では前者の方が断りにくい。

(例) 相づちは相手の話の途中で打つより終了時に打つ。

(例) 北部出身者と中部出身者でベトナム語の表現選択の判断基準に相違がある。

(2) ベトナム人が日本語コミュニケーションを行う場合, 学習歴より在日経験の有無が日本語運用上の障壁に関係する。

(例) 日本語学習者で, 在日経験がある 3 年生の方が在日経験がない 4 年生より, 相づちや表現選択や意味理解が日本語ネイティブに近づく。

(3) 類似の表現形式があり, その使用機会, 使用の判断基準が異なることが相互作用的アプローチの観点から, 日本人のベトナム語コミュニケーションの障壁となる。

(4) 非漢字圏に焦点が当たりがちだが, ベトナム人への日本語コミュニケーション教育には, 表現の使い分けができるための文化的側面を重視する必要がある。

(例) ベトナム人と日本人とでは, 同出身, 同環境, 同年齢, 同性といった共通性があると, コミュニケーションが円滑に行える。

(例) 親疎, 上下関係, 関係の継続性, 話題・内容, 年齢差といった諸要素を重要視することに類似性はあるが, そのいずれを重要視するかは, ベトナム人と日本人との間に相違が

ある。

(例)ベトナム語にも平易な言葉と教科書的な言葉、です/ます体・だ体があり使い分けの意識はあるが、日本語についてはその使い分けが難しい。

(5)ベトナム人への日本語コミュニケーション教育では、場面(特に参加者と話題・内容)、関係(親疎・上下、継続性)、属性(年齢、性別、出身)などの文化的側面を重視し、日越語の類似と相違を意識させ、表現の使い分けを指導する必要がある。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 件)

〔学会発表〕(計 件)

〔図書〕(計 件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別:

取得状況(計 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

取得年月日:

国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等

#### 6. 研究組織

##### (1)研究代表者

柳澤 好昭 (YANAGISAWA, Yoshiaki)

明海大学・外国語学部・教授

研究者番号: 80249911

##### (2)研究分担者

西川 寛之 (NISHIKAWA, Hiroyuki)

明海大学・外国語学部・准教授

研究者番号: 30387302

##### (3)研究分担者

中川 仁 (NAKAGAWA, Hitoshi)

明海大学・外国語学部・教授

研究者番号: 80348185

##### (4)研究協力者

グエン・ティ・フーン・チャー (Nguyễn Thị Hương Trà)

フエ外国語大学・日本語文化学科・教授